

感染症発生動向調査委員会報告 8月

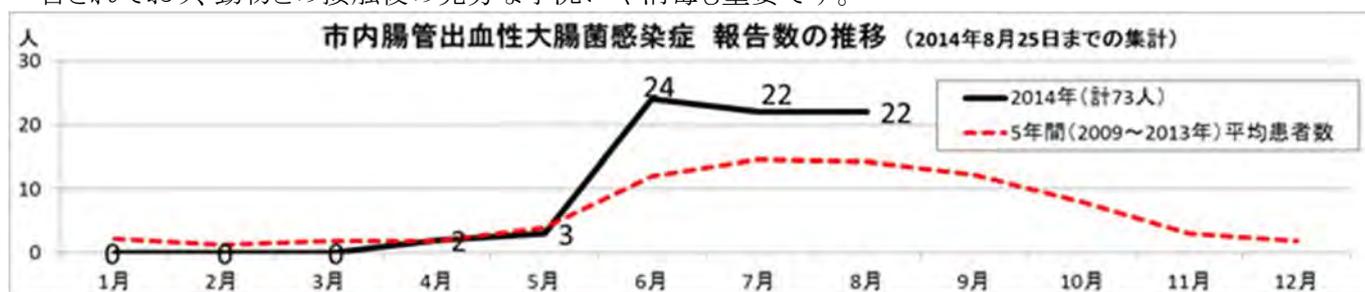
《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が続いています。

全数把握疾患 8月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	急性脳炎	1件
腸管出血性大腸菌感染症	22件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
マラリア	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
レジオネラ症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
アメーバ赤痢	2件	破傷風	2件
ウイルス性肝炎	1件		

＜細菌性赤痢＞ *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、渡航先(エジプト)での感染が推定されています。
 ＜腸管出血性大腸菌感染症＞計22件(O157VT1VT2 14件、O157H7VT1VT2 1件、O157VT2 3件、O157VT不明 1件、O121VT2 2件、O112VT1 1件)の報告がありました。焼肉店での喫食を原因とするものや、家族内での2次感染によるもの等が報告されています。今年の報告数は、6月から過去5年間の平均を上回る状態が続いています。9月にかけても例年報告が多いため、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での2次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにするのが大切です。全国的には毎年保育施設における集団発生が多くみられており、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要です。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要があります。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒も重要です。



＜マラリア＞三日熱マラリアの報告が1件あり、渡航先(インド)での感染が推定されています。
 ＜レジオネラ症＞肺炎型5件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
 ＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症2件の報告があり、1件は日本での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう1件は感染経路感染地域等不明でした。
 ＜ウイルス性肝炎＞1件のB型肝炎の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
 ＜急性脳炎＞40歳代の報告が1件ありました。病原体検索中です。
 ＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞30歳代の報告が1件あり、血清型はA群(国内の統計では、本症の起原菌はA群が最も多く報告されています。)です。創傷感染が推定されています。
 ＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞1件の古典型CJDの報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。
 ＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者2件の報告がありました。どちらも国内での同性間性的接触による感染でした。
 ＜破傷風＞2件の報告がありました。1件は90歳代で転倒による外傷からの感染が推定されています。もう1件は70歳代で感染経路等不明です。

定点把握疾患 平成26年7月28日から平成26年8月24日まで
(平成26年第31週から平成26年第34週まで。ただし、性感染症については平成26年7月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年 週一月日対照表

第31週	7月28日～8月3日
第32週	8月4日～8月10日
第33週	8月11日～8月17日
第34週	8月18日～8月24日

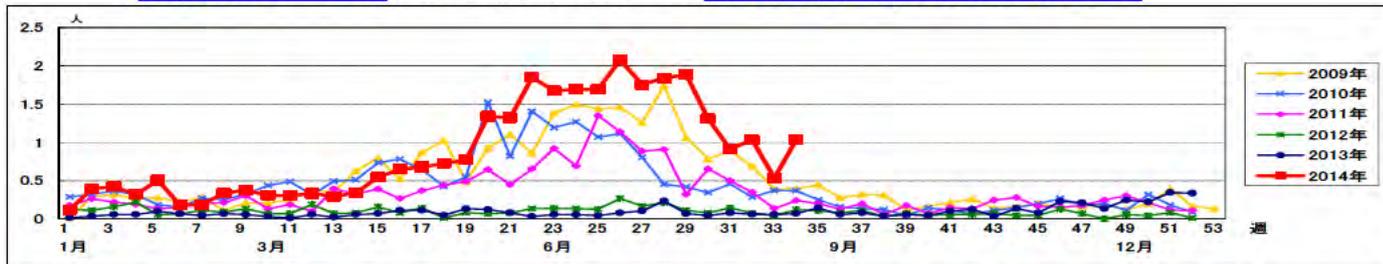
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か

所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

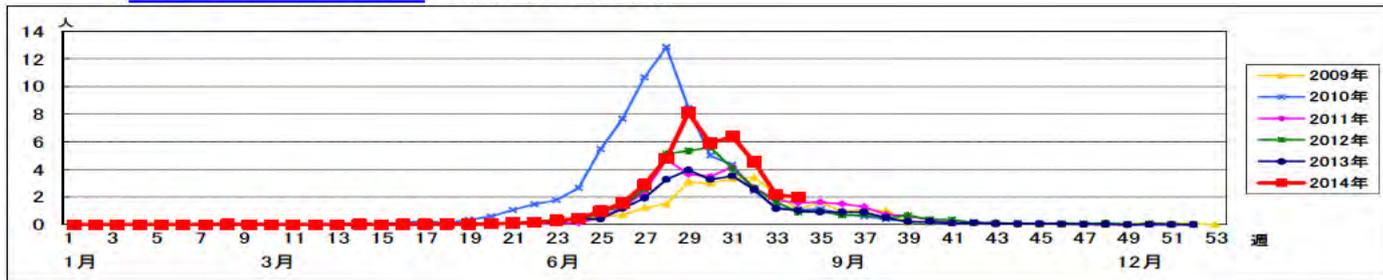
<伝染性紅斑>第34週は市全体で定点あたり1.04と、第33週0.54からやや増加しましたが、全体的には流行のピークは過ぎつつあります。しかし、緑区2.80など、報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。

◆[伝染性紅斑について\(国立感染症研究所\)](#) ◆[横浜市感染症臨時情報:伝染性紅斑](#)

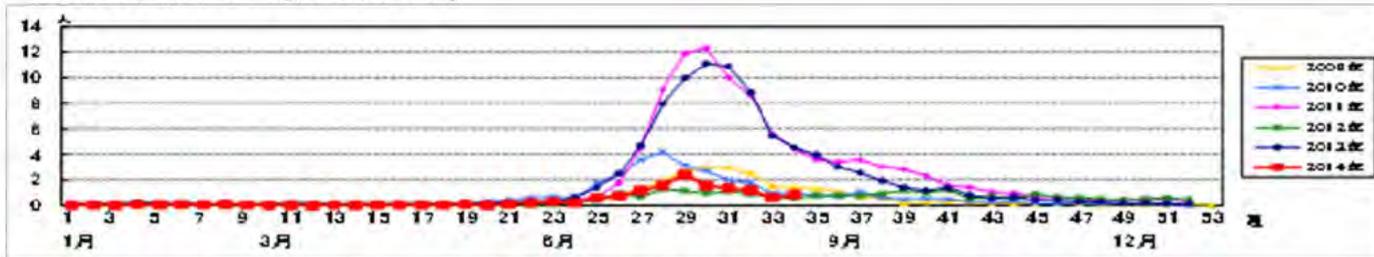


<ヘルパンギーナ>第34週は市全体で定点あたり1.99となり、流行のピークは過ぎつつあります。しかし、神奈川区4.00などと報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。感染予防では、患者との密接な接触を避け、流行時にうがいや手洗いをしっかりと行うことが重要です。特に患児のおむつを替えた後などは、よく手を洗いましょう。

◆[ヘルパンギーナについて\(横浜市衛生研究所\)](#)



<手足口病>第34週は市全体で定点あたり0.89となっています。区別では、港南区3.25などと報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。



<性感染症>7月は、性器クラミジア感染症は男性が29件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が9件でした。尖圭コンジローマは男性4件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第31週1.00、第32週0.33、第33週0.67、第34週1.00と報告が多くなっています。週当たりの報告が1.00以上となるのは2013年第52週以来です。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>7月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、基幹定点10件、定点外医療機関22件でした。

9月9日現在、ウイルス分離10株と各種ウイルス遺伝子44件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 または診断名 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RS感染症	咽頭結膜熱 (アデノ感染症含む)	胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性角結膜炎	発熱のみ	耳下腺炎	血球貧血症候群	その他
アデノ NT	1	1												1
アデノ 2型	1													
パラインフルエンザ 1型												1		
パラインフルエンザ 2型		1												
パラインフルエンザ 3型	1	3		2										
RS	1	1		13										
ヒューマンメタニューモ		1												
ライノ	1													1
コクサッキー A 2型	1													
コクサッキー A 4型	1							2						
コクサッキー A 9型		1				1			1					
コクサッキー A10型	2						1	1						
コクサッキー A16型							3							
エコー 11型						1			1					
パレコ NT						1							1	2
パレコ 1型						1								
パレコ 3型						1								2
合計	0 9	2 6	0 0	0 15	0 0	2 3	3 1	0 3	0 2	0 0	0 0	0 1	0 1	3 3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からではなく、基幹定点から7件、その他が24件で、赤痢菌 (*Shigella sonnei* I相)、腸管出血性大腸菌 (O157:H7、O157:H-、O121:H19、O112ac:HUT、O26:H11)、腸管毒素原性大腸菌 (O25:H-、O169:HUT)、腸管凝集性大腸菌 (O15:H34)、サルモネラ (*S. Agona*、*S. Enteritidis*)、*Campylobacter jejuni* が検出されました。赤痢菌 (*Shigella sonnei* I相)はインドへの渡航者から、腸管毒素原性大腸菌 (O25:H-)はカンボジア、ベトナム、エジプトへの渡航者から、それぞれ検出されました。その他の感染症は小児科からではなく、基幹定点から4件、その他が8件でした。A群溶血性レンサ球菌 (T9)は劇症型溶菌感染症でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

感染性胃腸炎			8月			2014年1月～8月		
検査年月	定点の別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数			0	7	24	3	71	87
菌種名								
赤痢菌				1			1	1
腸管病原性大腸菌							1	
腸管出血性大腸菌					20		1	61
腸管毒素原性大腸菌				1			3	
腸管凝集性大腸菌				1			1	
サルモネラ					3		25	7
カンピロバクター					1	1		2
NAGビブリオ								1
不検出			0	4	0	2	39	15
その他の感染症								
検査年月	定点の別		8月			2014年1月～8月		
件数			小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数			0	4	8	30	27	141
菌種名								
A群溶血性レンサ球菌	T1					2		2
	T4					6		
	T6					6		
	T9				1			1
	T11					1		
	T12					6		
	T B3264					2		
	型別不能					3		1
B群溶血性レンサ球菌								17
D群溶血性レンサ球菌								2
G群溶血性レンサ球菌								3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌				3			15	1
<i>Legionella pneumophila</i>								6
インフルエンザ菌					1			6
肺炎球菌						1		63
<i>Neisseria meningitidis</i>								1
結核菌								4
百日咳							1	
その他				1			10	3
不検出			0	0	6	3	1	31

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】